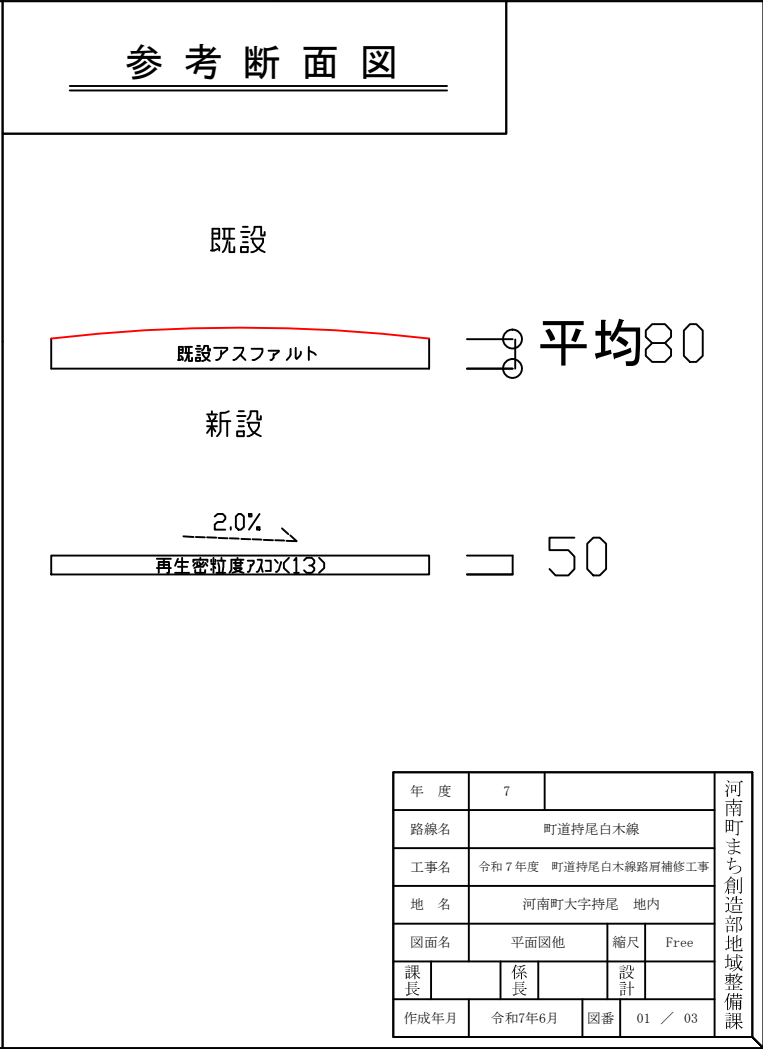
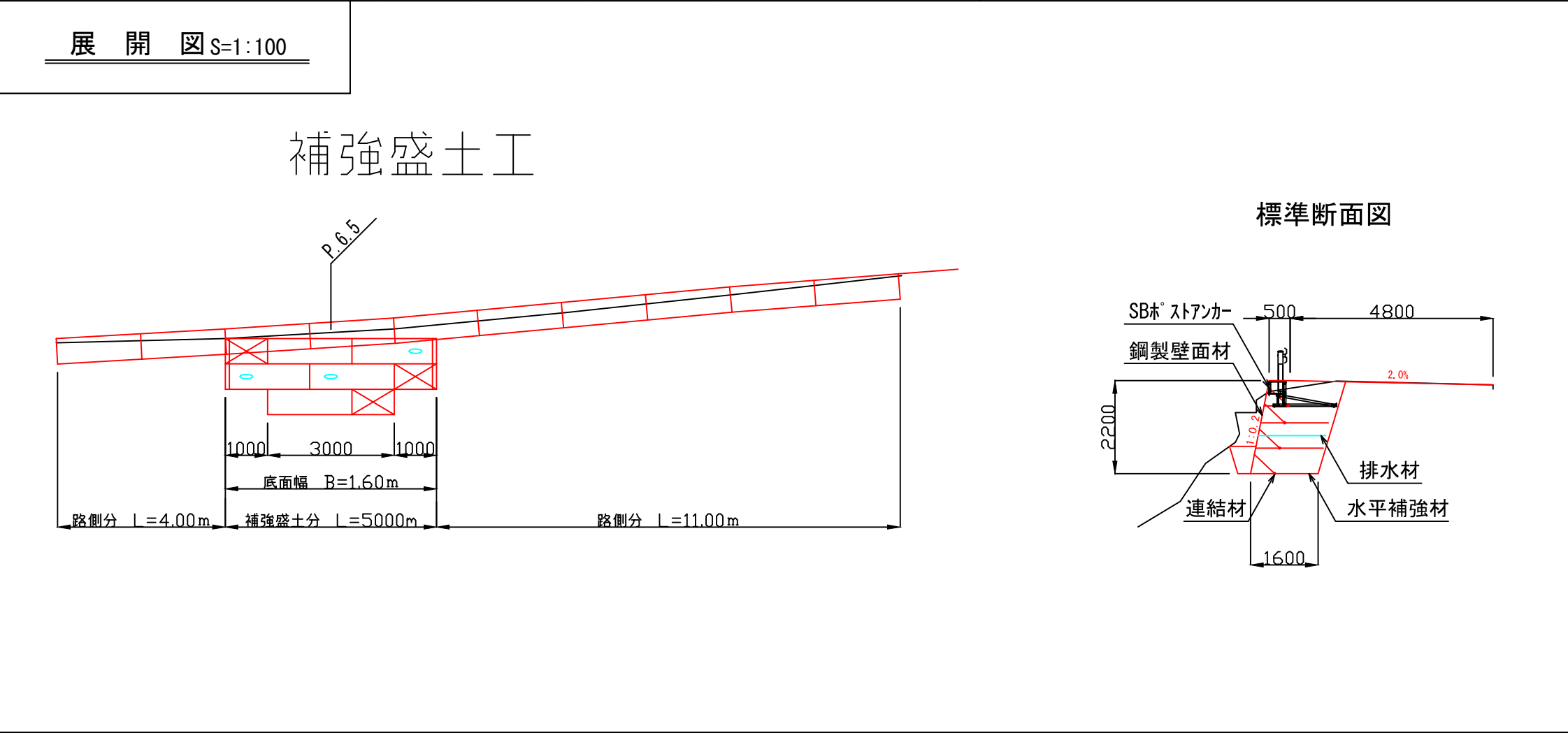
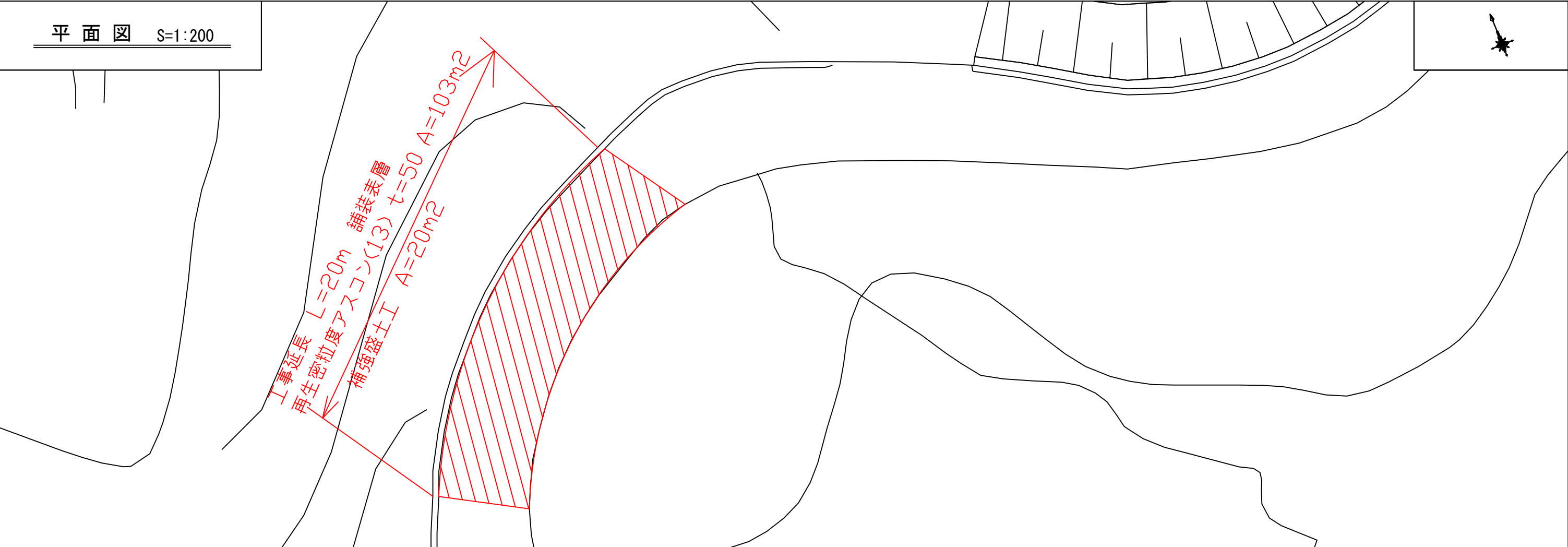
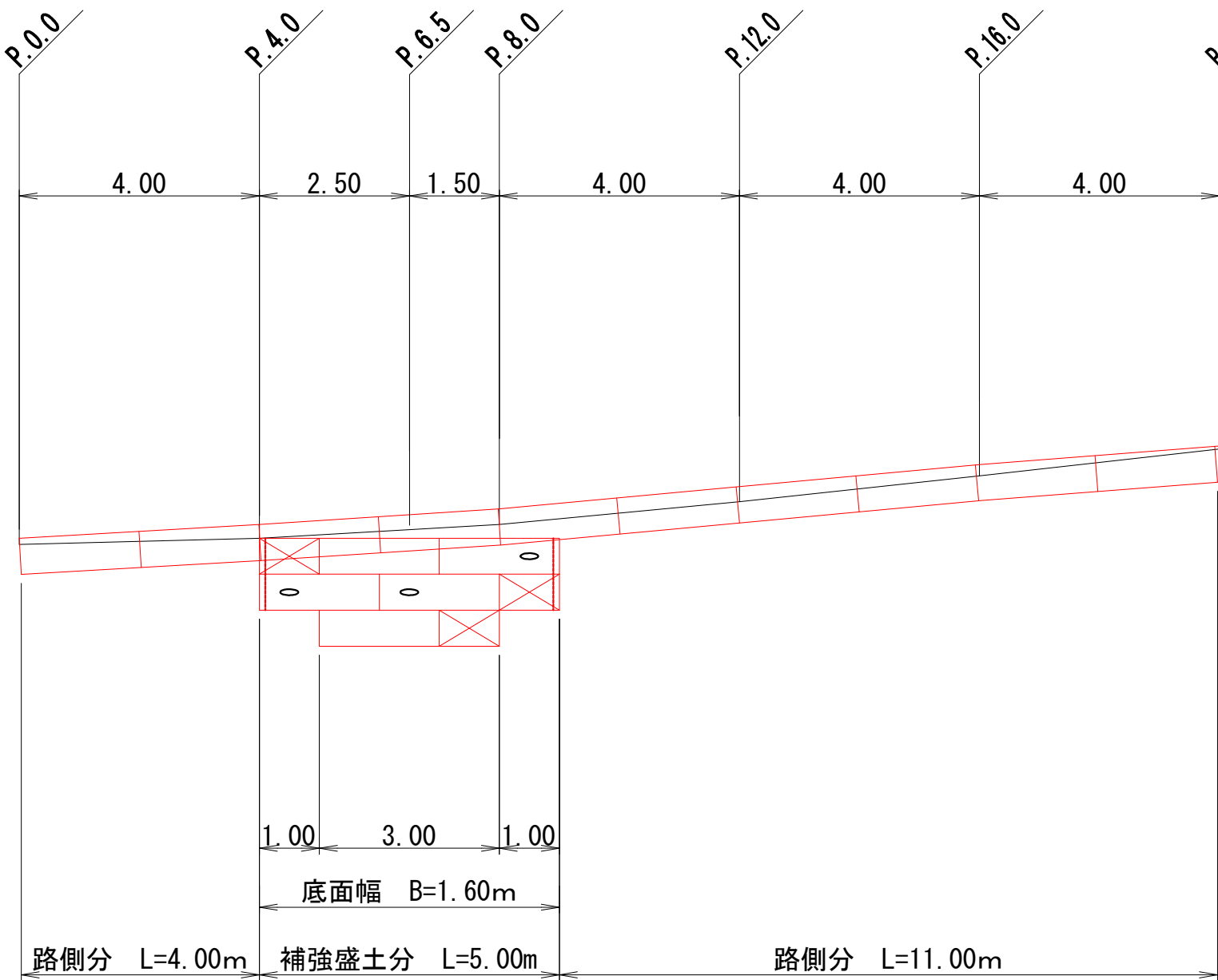




展開図

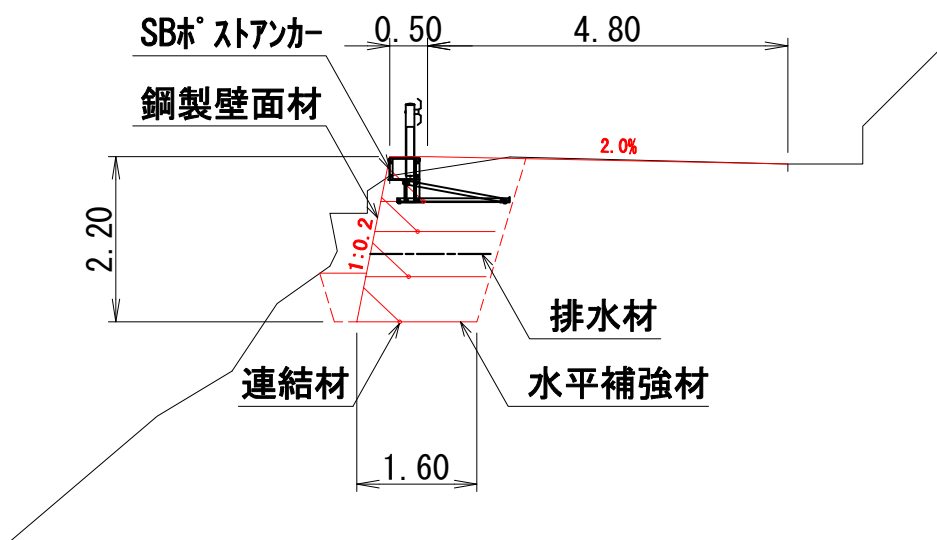


凡 例

- 壁面材 (2.0m)
- 壁面材 (1.0m)
- 側面板
- 排水材

標準断面図

P.6.5



設 計 条 件	
盛土材の内部摩擦角	$\phi=30^{\circ}$
盛土材の単位体積重量	$\gamma=19.0\text{kN/m}^3$
粘着力(内的・外的)	$c=0.0\text{kN/m}^2$
粘着力(全体)	$c=10.0\text{kN/m}^2$
活荷重	$W_L=0.0\text{kN/m}^2$
設計水平震度	$kh=-$

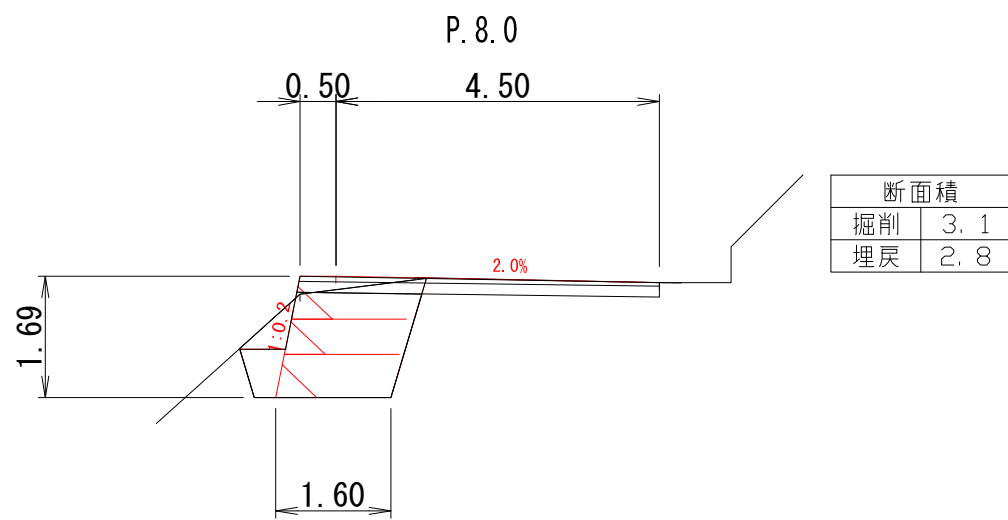
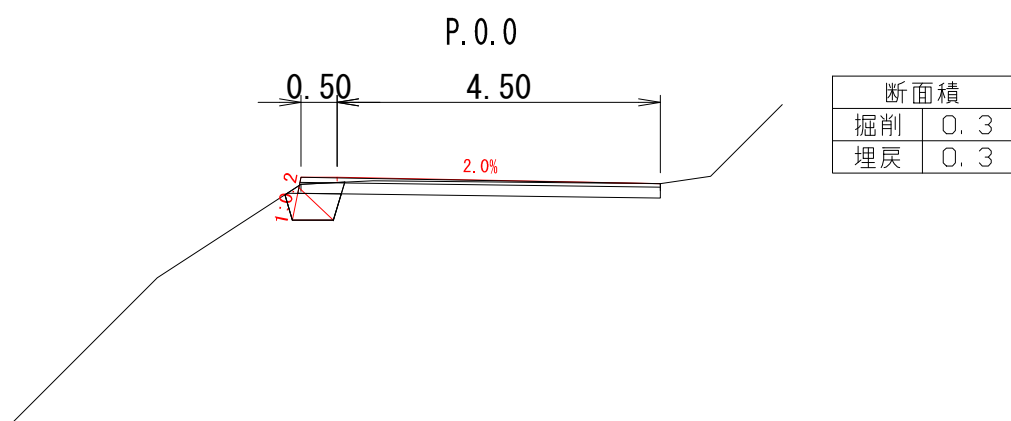
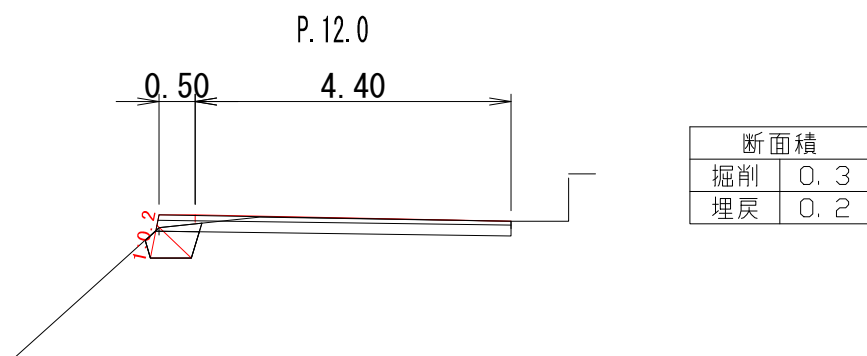
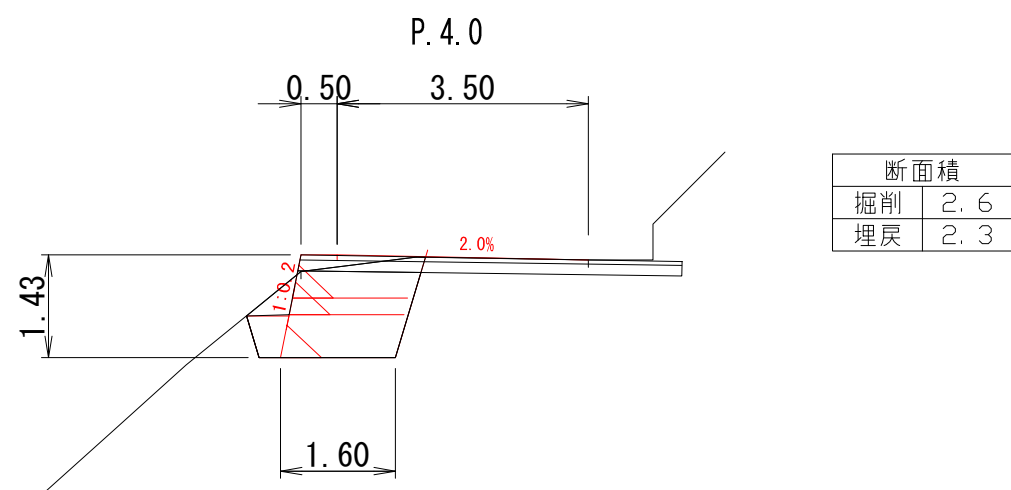
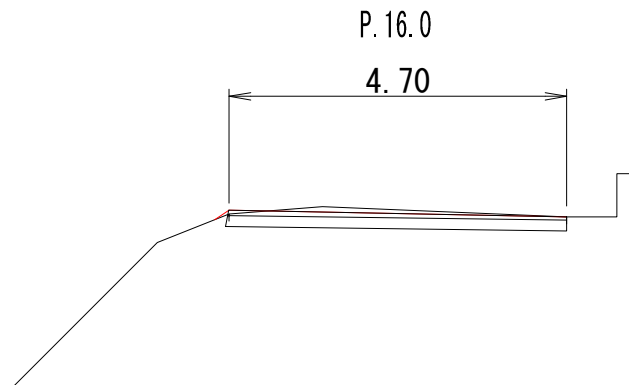
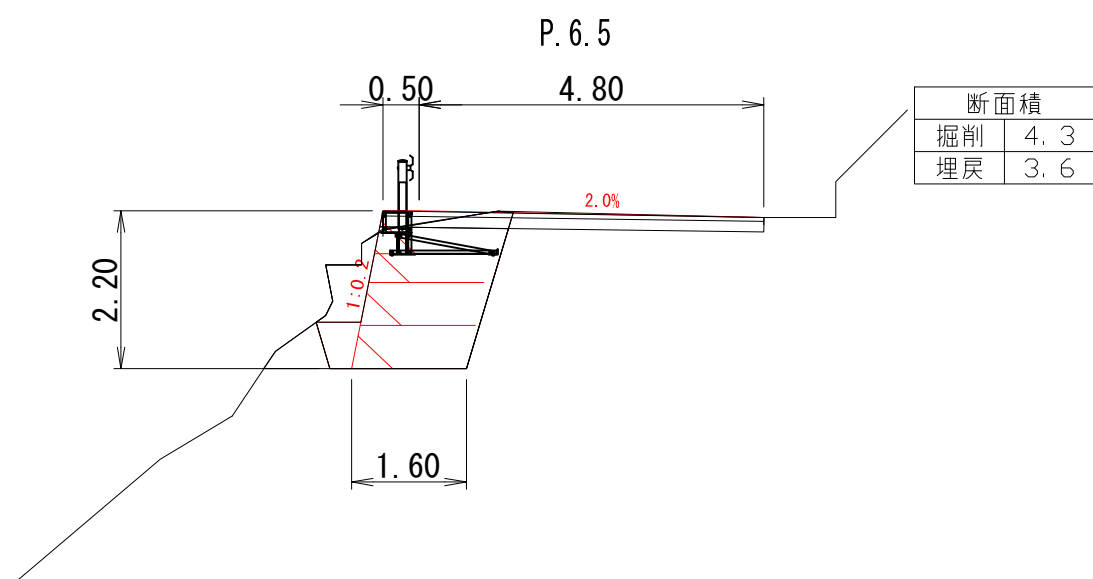
最大地盤反力度		
測点P.6.5	常 時	$q_{\max}=59\text{kN/m}^2 < q_a=200\text{kN/m}^2$
	地震時	$q_{\max}=-\text{kN/m}^2 < q_a=-\text{kN/m}^2$

特 記 事 項
- 鋼製壁面材は斜タイ材と腹起し材を有する剛性の高い構造のものと する。壁面材の断面係数は$0.6\text{cm}^3/\text{m}$以上とする。 - 鋼製補強材は各段の壁面材ユニットに面状に敷設すること。 - 鋼製壁面材と補強材の表面処理は溶融亜鉛めっきとし、その付着量は 膜厚$70\mu\text{m}$以上(HDZ170)以上とすること。 - 盛土材は転圧作業が行えるもの、または転圧作業ができるように改 良する事を前提とする。 - 背面の掘削面に湧水がある場合は、補強領域に水が侵入しないよう な排水対策を施すこと。 - 実施に際して土質試験等を行い、所定の土質定数や支持力を満足するか 確認すること。 - 施工管理基準値は以下の項目を目安とし、各機関の基準に従うもの とする。

施 工 管 理 基 準 値	
項目(頻度)	管理値又は許容値
盛土材の締固度 (盛土材 500m^2 に1回)	- JIS A 1210のA,B法による最大乾燥密度の 95%以上、C,D,E法で90%以上とする。 - 岩石質盛土材の場合は、工法規定方式で管 理するものとする。
完成後の壁面勾配	所定の壁面勾配$\pm 0.03\text{H}$(H:補強土壁高さ) もしくは30cm以内。

年 度	7				河南町まち創造部地域整備課
路線名	町道持尾白木線				
工事名	令和7年度 町道持尾白木線路肩補修工事				
地 名	河南町大字持尾 地内				
図面名	補強盛土展開図		縮尺	1/40	
課長		係長		設計	
作成年月	令和7年6月		図番	02 / 03	

横断図



年 度	7		河南町まち創造部地域整備課
路線名	町道持尾白木線		
工事名	令和7年度 町道持尾白木線路肩補修工事		
地 名	河南町大字持尾 地内		
図面名	横断図	縮尺	1/100
課長		係長	設計
作成年月	令和7年6月	図番	03 / 03